

# Club BUSINESS FARMERS

『農業経営者』読者の会 会報

## CONTENTS

第34回定例セミナー報告

第35回定例セミナー報告

9月の定例セミナー } ご案内  
第3回全国大会

8月の活動・参加申込書

Vol.23 2009年8月1日発行

■発行・編集／(株)農業技術通信社『農業経営者』読者の会 事務局(担当:長谷川)

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場3-18-25 康洋ビル9F TEL 03-3360-2697 FAX 03-3360-2698

### 第34回定例セミナー報告

## 精密農業が拓く フードビジネスの可能性

成と可変施肥を、コ  
ントラクター事業と  
して展開することも  
視野に入れている。

7月3日開催の第34回定例セミナー  
では(株)イソップアグリシステム取締役部  
長の馬渡智昭氏にお話を頂いた。同社  
の精密農業ではGPS測量した圃場情  
報をもとに、土壌中の肥料のバラツキ、  
作業履歴、品質等のデータを収集し、  
可変施肥によって資材の過剰投与を抑  
えている。これらによって慣行施肥より  
も肥料コストの低減が狙えるほか、生  
産性向上、品質安定、環境保全など  
を実現するのが目的だ。

実際どのくらい増収やコスト低減の  
効果があるのだろうか。同社が小麦の  
初期生育把握に使用している葉色セン  
サーのカタログでは、5年間500ha  
の小麦圃場に使用して約31万ポンド  
(約480万円)の利益増となっている。  
「可変施肥を行うと、慣行施肥では倒  
伏する量を与えても、倒伏しません。  
正確な数値は出せていませんが、倒伏  
しない分は確実に増収しています」  
同社では、精密農業によるマップ作

しかし、精密農業が拓くフードビジ  
ネスの可能性はその先にある。それは  
情報が付加された農産物を生産でき  
ることだ。これまで農業は作った側か  
ら食べる側に一方的に情報やモノを  
送ってきた。しかし、このように精密  
農業というものを核に、異業種が集  
まって知恵を融合させることで、いろん  
な多様なフードシステムを構築するこ  
とができるようになる、と氏は考え  
ている。



精密農業の技術は  
農業だけで使うのは  
もったいない

セミナーDVD  
8月31日  
発売

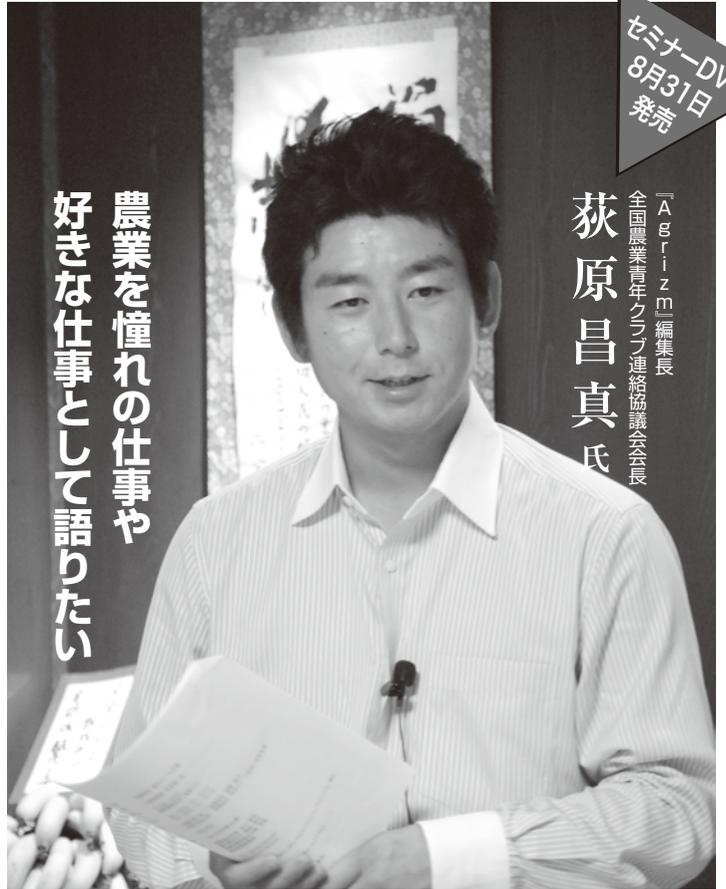
(株)イソップアグリシステム 取締役部長

馬渡智昭氏

## 第35回定例セミナー報告 29歳の農業革命!! 『Agrizm』で実現したいこと

セミナーDVD  
8月31日  
発売

「Agrizm」編集長  
全国農業青年クラブ連絡協議会会長  
**荻原昌真氏**



**農業を憧れの仕事や  
好きな仕事として語りたい**

**自分が作ったなんて  
言っちゃいけない**

**「想いを伝える」メディアを使う  
つてのが素人発想ですよ**

「よくアグリズムを通して何を変えた  
いんですか?後継者問題を解決したいの  
ですか?なんてマジメな顔で聞かれるので  
すが、そんなに難しいことを考えて始め  
たわけではないんです。若者だからとり  
あえず突っ走った。そしてアグリズムが  
出来た。そんなムスカシイこと考えていな  
いからこそ出来たことなんです」

第35回定例セミナーは荻原氏のこの言  
葉から始まった。今回のセミナーは同氏が  
編集長を務める雑誌『Agrizm』の創  
刊の日、7月16日(木)にいつもと場所を  
変え、国立ファーム「農家の台所」新宿3  
丁目店での開催となった。

「売る上でのこだわりは、他の農場の米  
が混ざらないよう、ただの長野県産コシヒ  
カリになってしまわないようにしていま  
す。全量を『信州ファーム荻原』が作った  
と消費者に伝えるようにしています」

このように「信州ファーム荻原が生産し  
た」農作物として売ることに強いこだわ  
りを持つ荻原氏は自ら店頭販売に立つて  
きた。

「長野でお米作っていないんじゃない  
の?ってよく言われるんです。こっちは気

合入れて、ピシッとし格  
好して店頭に立ってい  
る。すると今度は「農家  
はそんなカッコしてない  
でしょ」「農家の人は大  
変な想いをして作って  
るんだから、簡単に自分  
で作りましたなんてウソ  
言っちゃいけないよ」って  
言われてしまいました」

荻原氏自身が作った  
米だと知り、それだけで  
驚き、米を買っていくお  
客さんもいて、うれし  
かった反面、若い人が農  
業をやっていることが寂  
らけていなかったのが寂  
しく感じた。

「でも、逆に若者が農業やっているって知  
るだけでこんなに応援してくれる。みん  
な農業の楽しさを知らないだけで、そん  
な情報をみんなに伝えられていないだけ  
で、むしろそんな情報を伝えることが出  
来ればもっと農業なんて面白くなるし、  
もっと食べ物を楽しんで選んでもらえるか  
なと店頭販売を通して思ったんです」

荻原氏の周囲には優れた農業者がた  
くさんいる。それが、世間に知られていな  
いことが悔しかった。そこで農業の楽しさ

を伝えるためにメディアを使おうと思  
立つ。しかし、新聞社やTV局はあまり反  
応を返さないことを自身の米の営業活動  
の中で知っていた。そこで2007年の  
冬、Agrizmの創刊を出版社である弊  
社に持ちかける。

「たぶんみなさんもご存知だと思うん  
ですけど、農業技術通信社って変わった会  
社じゃないですか(笑)。だからたぶん緒  
に面白がってくれると思ったですよ」

そして約1年半の準備期間を経て09  
年7月16日に『Agrizm』が創刊され  
た。

**マジ農業してえ、負けてらんねえ  
つて感じる農業雑誌です**

「『Agrizm』はかっこよくね?って言わ  
れるような農業への関わり方や考え方を  
持っている農業青年を紹介し、共鳴と刺  
激を与える雑誌。そんなことが伝わると  
絶対農業したくなると思うんですよ」

お互いを刺激しあうことで自らの農業  
センスを磨いていく。そして農業を志す  
若者が増え、他の業種には当然存在する  
抜きつ抜かれつという良い意味での緊張  
感を持ち込みたいと考えている。

「倫理的な正義的な話で農業を持ち出  
されるなんてことではなくて、もっと普通  
にあこがれる仕事だとか、好きな仕事と  
して認められると思ったし、やっぱりそん  
な風に期待されると仕事頑張っちゃいま  
すよね」

2009年9月 定例セミナー ・ 第3回全国大会のご案内

第39回

9月18日(金) 16:00~18:00

会場:(株)農業技術通信社内セミナールーム

ベルグアース(株) 代表取締役社長

山口一彦氏 (やまぐち・かずひこ)

## 業界の常識を変える

### ～野菜苗トップシェア企業の技術と経営～

野菜苗は農家が自家育苗してきたが、「接ぎ木」という付加価値と日本全国翌日着という仕組みにより、ベルグアース(株)は野菜苗の常識を変えた。さらにアースストレート苗やヌードメイク苗のように輸送コストを大幅に抑えた苗を、全国に供給することで更なる躍進を目指している。同社代表の山口一彦氏が、業界の常識を変える技術と経営を語る。



#### PROFILE

1957年愛媛県生まれ。96年(株)山口園芸を設立。2001年研究開発・営業販売部門を独立させ、ベルグアース(株)を設立、産学官連携による閉鎖型苗生産システムに関する研究を開始する。02年第10回国際園芸技術展にて貯蔵型ヌードメイク苗を発表。06年閉鎖型苗生産システム14基を導入し、現在21基で運用中。

第3回

# 全国大会

2010年2月19日(金)～20日(土)

## 農業の多様な可能性を考える

～『担い手』ではなく、農業経営者として～

今、農業が社会から求められる役割は多様化しています。それはカロリーを供給する食糧供給の枠をこえ、物質循環、福祉や教育、さらにはエンターテインメントの領域にも拡大しています。このような時代の要求を受けて、農業経営のありようも多様になってきています。そして農業経営者を評価する指標も、経営面積や販売額だけではなくなってきたはず。

こうした変化のなかで、農業界では『担い手』という言葉を使います。最近では特に新規就農者を育成する文脈で頻繁に使われています。なぜ農業では『担い手』というお墨付きが必要なのでしょう。新規就農者の育成には、しかるべき雇用ができる農場があればよいのであり、農場の成長こそが肝要なのです。

農場の成長とは、外側への拡大だけではなくありません。内側に深化していく成長もあります。一つ一つの農場が経営面積や販売額といった『担い手』としての指標や役割ではなく、顧客やマーケットに出会うことで社会における役割に気付くことです。そしてナンバー・ワンを競うだけでなく、オンリー・ワンの位置を求めて切磋琢磨に励むことです。『担

い手』という言葉に象徴される選別政策は必要ありません。選別はマーケットや顧客がするからです。

農業経営者の仕事とは他人に与えられた『担い手』の指標を満たすことではなく、目の前にいる顧客の要求を満たすことです。社会から求められる多様なニーズに応えうる経営者の条件は唯一つ、それをやろうとする意志です。農業は個人事業として成立しやすい産業の一つであり、だからこそ既存の農業の枠をこえた、幅広い多様な可能性が広がっているのです。

第3回全国大会は、2010年2月19日(金)～20日(土)に開催します。ここで私達は健全なたちで顧客やマーケットに選ばれる道程を探していきましょう。現在、講師として30～60代までの各世代を混ぜて、優れた農業経営者に出演を交渉しています。各々から真の『担い手』とは何か、己の実践を含めて語っていただいた後、座談会として日本農業の多様な可能性を議論していただきます。講義だけではなく、各テーマに分かれた参加者全員のグループディスカッションも企画中です。ぜひ、この機会に奮ってご参加ください。  
『農業経営者』読者の会 事務局

第37回

**8月7日(金)** 16:00~18:00

会場: (株)農業技術通信社内セミナールーム

## 数字を利用した農業革命

～他産業では当たり前前定の定量化を農業で～

農業が他産業と同様の経済性を得るためには、数字による合理的管理が必須だ。しかし従来の農業技術では限界があり、数字を元にした技術に実用性はなかった。「必要な収量を、必要な時期に、必要な品質で得るためには、何が、いつ、どのように、どのくらい必要なのか」を数字で明らかにするJuncropシステムについて開発者の岡本信一氏に解説頂く。

(有)アグゼス 代表取締役社長

**岡本信一氏** (おかもと・しんいち)



**PROFILE**

1961年東京都生まれ。日本大学文理学部心理学科卒業。北海道と埼玉での農業研修の後、2年間の派米農業研修を経てパイオニアハイブレッDJヤパン(株)入社。95年農業コンサルタントとして独立。98年(有)アグゼス設立。農業関連メーカーの技術顧問、農業法人や食品メーカーのコンサルタントを兼任している。

第38回

**8月28日(金)** 16:00~18:00

会場: (株)農業技術通信社内セミナールーム

## これも農業!!

## 私の顧客は動物園

京都府南山城村。バス会社すら撤退した山奥の山村で、全国で2つとない飼料ビジネスを展開する(有)クローバーリーフ。売るものは「動物園の飼料」。無農業で育てた牧草を刈りとり、ユーカー、樫、竹などとともに届けるというビジネスだ。「誰でもできそう」などと思ったら大間違い。そこには食うや食わずの苦闘から生まれた経営哲学と工夫があるのだ。

(有)クローバーリーフ 代表取締役社長

**西窪 武氏** (にしくぼ・たけし)



**PROFILE**

1949年京都府生まれ。68年京都府立木津高校農業科卒業後、酪農業の法人に就農。その後1年間米国の農業実習に参加。帰国後独立して乾燥牧草ビジネスを開始する。84年から京都市動物園に生の牧草を納入して事業が本格化。現在は大阪・天王寺動物園など全国12カ所の動物園と取引がある。年商約5000万円。

◎ **セミナー参加申込・DVD購入**

■参加を希望する項目に  して、必要事項をご記入下さい。

月刊『農業経営者』  
定期購読者 **無料**

〈セミナー〉	〈懇親会への参加〉	〈セミナーDVDの購入〉
6/12 (金) 武田泰明氏 終了	終了	<input type="checkbox"/>
7/ 3 (金) 馬渡智昭氏 終了	終了	<input type="checkbox"/>
7/16 (木) 荻原昌真氏 終了	終了	<input type="checkbox"/>
7/24 (金) 川地真由氏 終了	終了	<input type="checkbox"/>
8/ 7 (金) 岡本信一氏 <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
8/28 (金) 西窪 武氏 <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
9/18 (金) 山口一彦氏 <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

※セミナー受講料は定期購読者無料、一般参加者5,000円です。  
 ※セミナー終了後には、懇親会(18:00~20:00)があります。  
 ※セミナーDVDは1枚2,000円(税込)+送料100円です。DVDの発売はセミナー実施の翌月末です。

◎ **定期購読申込**

■いずれかに  して、必要事項をご記入下さい。

- 1年(12冊) 18,000円**  
送料サービス!
- 2年(24冊) 33,000円**  
お得な3,000円割引!
- 3年(36冊) 45,000円**  
お得な9,000円割引!

※本誌セミナー(年22回)参加料込(一般5,000円/回)  
 ※本誌セミナー全音声ダウンロード(年22回)込(一般視聴不可)

お名前	会社名 農場名	TEL
E-mail	<input type="checkbox"/> セミナー音声聴講パスワード希望	FAX
ご住所 〒		

**お申込方法** FAX **0120-410-359** まで送信してください。  
 (『農業経営者』HP <http://www.farm-biz.co.jp/> からもお申込できます)

お問合せ/(株)農業技術通信社「農業経営者」読者の会 事務局 TEL 0120-555-184

※セミナーへの無料参加は、定期購読1件につき、1名様までです。2名様以上でお申込される場合、2人目より2,000円をいただきます。予めご了承下さい。

※DVD、定期購読のお申し込みの方には代金引換にて商品をお送りいたします。商品受け渡しの際に代金をお支払い下さい。